

弘前大学学報



地(知)の拠点大学による地方創生推進
事業(COC+)に関する協定締結式

第 140 号
平成27年11月号

目 次

学内ニュース

- 「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業」
キックオフフォーラムを開催 ----- 1
- 「ナチュラル・イノベーション講座」を開催 ----- 2
- 一般社団法人コラボ産学官主催 第9回コラボ学長フォーラムに佐藤学長が出席 ----- 3
- 弘前大学起業家塾（第3回目）を開催 ----- 4
- ロシア科学アカデミー極東支部ウラジオストク植物園研究所と
国際共同セミナーを開催 ----- 5
- 佐藤学長が陸奥新報友の会にて講演 ----- 6
- 在札幌米国総領事 弘前大学を訪問 ----- 7
- 「第1回弘前大学附属図書館POPコンテスト」表彰式を開催 ----- 8
- 「弘前大学グリーンカレッジ」ホームルームを実施 ----- 9
- 第11回COI特別講演会を開催 ----- 10
- 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に係る
連携・協力に関する協定を締結 ----- 11
- 平成27年度文化庁長官表彰を教育学研究科2年 斎藤和彦さん受賞 ----- 13

諸 会 議 ----- 14

人 事

- 人事異動 ----- 16

主要日誌 ----- 17

学内規則 ----- 18

「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業」
キックオフフォーラムを開催

弘前大学は平成 27 年度経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業」の採択を受け、平成 27 年 11 月 2 日（月）ホテル ナクアシティ弘前において、経済産業省サービス政策課長 佐々木啓介氏，株式会社フランチャイズアドバンテージ 代表取締役 田嶋雅美氏のほか，県内外のサービス産業事業者，金融企業，青森県・弘前市の行政関係者を多数お招きし，キックオフフォーラム「地域企業を連携した地方大学におけるサービス経営人材の育成」を開催し，一般市民・学生を合わせ約 200 名が参加しました。

田嶋雅美氏による基調講演「大学と連携したサービス経営人材育成」のあと，「地方大学におけるサービス経営人材の育成について」というテーマでパネルディスカッションが行われ，参加者からの質疑など活発な議論が交わされ，盛会のうちにキックオフフォーラムを終了しました。

今後は，学生による発表等も予定しています。



佐々木啓介氏による講演の様子



田嶋雅美氏による講演の様子



パネルディスカッションの様子

「ナチュラル・イノベーション講座」を開催

平成 27 年 11 月 4 日（水）、八戸商工会館 1 階弘前大学八戸サテライトにおいて、「弘前大学八戸サテライト平成 27 年度『ナチュラル・イノベーション講座』第 1 回目」を開催しました。

同講座は、青森県の農林水産や鉱業、環境などの自然由来の資源を活用した産業において、弘前大学の知的財産をもとに新製品開発や新市場を開拓した手法や過程を紹介することにより、高度な付加価値を創出する企業や事業内でのチャレンジ精神豊かな人材育成を目指し、延いては県南地方の人材醸成に資することを目的に、平成 27 年 11 月 4 日（水）～平成 28 年 2 月 18 日（木）に掛けて全 5 回開催されます。

同講座初回は、八戸サテライトの高橋客員教授の開講挨拶の後、講師の東北区水産研究所資源海洋部浮魚・いか資源グループグループ長 酒井光夫氏から「未利用資源のいか加工は成長産業～日本における“いか”の役割」、嵯峨直恆 弘前大学食料科学研究所所長から「北日本食の成長戦略に基づいた水産イノベーションと地域振興」と題した講義が行われました。講義では、酒井氏からイカの漁獲量の変遷、資源開発の歴史や現状等について、嵯峨所長から産学官連携による機能性食品開発の事例や成果等が説明されました。参加した 26 名の受講生らは、熱心に耳を傾けるとともに、「いかを利用した新たな加工品ができないか」等の意見が出るなど、活発な議論がなされ有意義な講義となりました。



酒井光夫氏による講演の様子



嵯峨食料科学研究所所長による講演の様子



会場の様子

一般社団法人コラボ産学官主催 第9回コラボ学長フォーラムに佐藤学長が出席

平成27年11月5日（木）に、一般社団法人コラボ産学官主催の「コラボ産学官設立11周年記念事業第9回コラボ学長フォーラム」が、東京都江戸川区タワーホール船堀において開催されました。

本フォーラムは、「地方創生」に対し大学は何が出来るのか？というテーマで行われました。冒頭、東京大学産学連携本部事業化推進部長の各務茂夫教授と株式会社ジーンテクノサイエンスの河南雅成代表取締役社長が登壇し、各務教授からは、東京大学における起業家人材の育成やベンチャー企業支援について、河南社長からは、ベンチャー企業が上場するまでの資金調達や人材確保についてそれぞれ基調講演がありました。続くパネルディスカッションには、秋田県立大学小間篤学長、信州大学濱田州博学長、電気通信大学福田喬学長、長岡技術大学東信彦学長、そして、本学からは、佐藤敬学長がパネリストとして登壇し、各大学のベンチャー企業支援や特許等技術移転に関する取組紹介や地域創生における大学の役割等についてディスカッションを行いました。

佐藤学長からは地方大学である本学の役割や「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」等の取組みの紹介がありました。また、本学の地域貢献や人材育成について、青森県の農産物輸出産業、特にリンゴを例に挙げ「青森県の産業とリンクした地域貢献が重要である」といった意見や、本学卒業生の多くが県内に就職する状況に触れ、「地域で活躍する人材でもグローバルな視点を持つことが重要であり、グローバル（ローカル+グローバル）人材の育成が必要」と意見を述べられ、各パネリストの方々と闊達な議論を交わされました。

会場では、参加者が熱心にメモを取る等、大変盛況なフォーラムとなりました。



佐藤 敬 弘前大学長

弘前大学起業家塾（第3回目）を開催

平成27年11月9日（月）、弘前大学総合教育棟4階404講義室において、「弘前大学起業家塾」を開催しました。

研究・イノベーション推進機構では、大学のもつシーズを活用したベンチャーの創出と地域産業の発展及びイノベーションの創出に向けて、学生や若手研究者の起業（VB）を促進することを目的とした「弘前大学起業家塾」を今年度よりスタートさせました。

第3回目は、日本GE株式会社 復興支援・サステナブルシティ推進・オリンピックプログラムマネージャー 加藤俊也氏による「GEが取り入れたシリコンバレー流とは？」及び株式会社東京大学 TLO 代表取締役取締役社長 山本貴史氏による「産学連携によるイノベーション創出」と題し、顧客との距離、商品化のスピード、成功率向上、実現を容易とする“FastWorks”の取り組みと日本と米国の産学連携の実態及び産学連携からイノベーションを実現させるための手法についてそれぞれ御講演いただきました。

当日は学生、教員、学外研究者、企業関係者など約50名が聴講し、講演後も塾生から加藤氏、山本氏に多数の質問が寄せられるなど、熱心な意見交換が行われました。



加藤俊也氏による講演の様子



山本貴史氏による講演の様子

ロシア科学アカデミー極東支部ウラジオストク植物園研究所と国際共同セミナーを開催

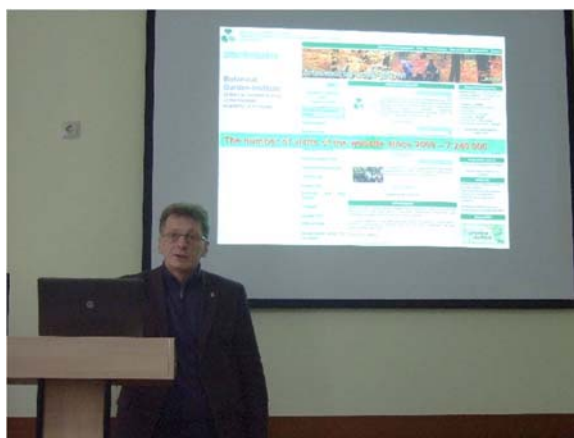
白神自然環境研究所とロシア連邦・ロシア科学アカデミー極東支部ウラジオストク植物園研究所は、平成 27 年 11 月 9 日(月)に国際共同セミナー“Actual problems of the study of biodiversity of East Asia”をウラジオストク植物園において開催しました。

ウラジオストク植物園研究所と当研究所は 2015 年 2 月 20 日に学术交流・協力協定を締結し、環日本海地域における自然科学分野の発展と研究成果の国際的な発信の促進を共同で行うことを既に確認しています。当研究所では世界自然遺産白神山地をはじめとする北日本の自然環境が、地球規模の環境変動にどのように応答するのかをグローバルな視点でとらえるため、ロシア沿海地方を重要な研究対象であると考えています。

今回のセミナーでは、より具体的な研究協力体制を構築するためにも、双方の研究所から 4～5 名ずつ、研究所の取組や研究に関する様々な話題提供を行いました。セミナーには植物園研究所の職員のみならず他研究機関からも研究者が訪れるなど、大変有意義なものとなりました。また、セミナーの後半には活発な意見交換も行われ、日露で協力し、関連性の深いロシア沿海地方と北日本の自然環境に関する研究教育活動を推進することを確認しました。



セミナー前の記念品贈答式



クレフトフ所長による研究所概要説明



セミナーの様子



植物園内視察の様子

佐藤学長が陸奥新報友の会にて講演

平成 27 年 11 月 16 日（月），陸奥新報社の広告主で組織する「陸奥新報友の会 講演会」に佐藤学長が講師として招かれました。

「地域と共に－弘前大学の挑戦」と題し、「世界に発信し、地域と共に創造する」大学として、また、地域活性化の中核的拠点としての役割を担うため、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」、学生の就学・留学を支援する「弘前大学ゆめ応援プロジェクト」、「HIROSAKI はやぶさカレッジ」、地域の方々の「学び直し」のニーズにこたえ、正規学生の開講科目の一部を開放して学生と共学でき、サークル活動、大学行事にも参加できる「弘前大学グリーンカレッジ」、弘前市、弘前商工会議所及び地域の企業等から支援を受けグローバル人材を育成する「学都ひろさき未来基金」など、本学が取り組んでいる様々な事業を紹介しました。佐藤学長は講演の中で「このような事業で地域の活性化に貢献し、弘前大学の価値を高めていきたい。その成果を世界に発信していきたい」と話され、出席者は佐藤学長の講演に熱心に耳を傾けていました。



会場の様子

在札幌米国総領事 弘前大学を訪問

在札幌米国総領事館のハービー・ビーズリー領事が、平成 27 年 11 月 18 日（水）、弘前大学を訪問しました。同氏は、2015 年 8 月に在札幌米国総領事館 広報文化交流担当領事として着任。アメリカで日本語の学士号を取得し、学部生の時に交換留学生として名古屋や横浜で学んだ経歴を持ち、日本とは深い親交があります。

佐藤学長を表敬訪問した後、イングリッシュ・ラウンジを訪れたハービー領事は、アメリカから留学中の学生と懇談し、大学生活の様子や今後の夢について語り、会話が弾んでいました。

その後、農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（藤崎農場）を訪れ、収穫の時期を迎えたりんごの収穫体験をしました。弘前大学で開発された品種など、たっぷり蜜の入った果実を収穫するというめったに出来ない貴重な体験を楽しみ、今後もアメリカとの友好関係が継続・発展することを期待して大学を後にしました。



学長表敬訪問（左から、佐藤学長、ビーズリー領事、通訳者、和氣副学長）



イングリッシュ・ラウンジでの様子

「第1回弘前大学附属図書館 POP コンテスト」表彰式を開催

11月18日、「第1回附属図書館 POP コンテスト」表彰式を開催しました。POP コンテストは、平成17年～24年度に開催された弘前大学学生『言語力』大賞コンテストの後継事業として、図書館の利用促進及び読書推奨を目的として開催したものです。

応募作品40点を本と一緒に展示し、図書館利用者（学外者を含む）による投票によって6点選ばれました。大賞は『話し方入門』（D・カーネギー著）のPOPを書いた理工学部4年の本間弘樹さん、デザイン賞は『コミュニケーションをデザインするための本』（岸勇希著）のPOPを書いた人文学部3年出川綾子さんが受賞し、佳作を4名が受賞しました。

表彰式では、郡館長から一人ひとりに表彰状が手渡されました。受賞者からのコメントとして、「この本は広告、PRの方法について書かれた本だが、それ以外でも普段の生活にも生かせる本」（出川綾子さん）、「数学を面倒くさいと思っている人でも、数学が楽しいと思えるようになる本。デザインのテーマとしては、みんなが楽しくなる、好きになるということに重点を置いて作った」（山本健太郎さん）、「この本は大学生と同年代の4人の青年達が、価値観やアイデンティティをしっかりとって生きていく中で、社会の苦悩や挫折を描いた作品。自分のことを振り返り、感動した話なので是非読んで欲しい」（富士開さん）、「私の一押しである志村真帆さんの本をPOPでアピールした。著者の志村さんが静岡県出身なので、静岡から見た富士山と、湖面に映る逆さ富士を描き、本の表紙の青色と合わせたポップなPOPを作った。この本は数学の堅い参考書ではなく、お菓子の詰め合わせのよう。理系文系問わず、読んで欲しい」（近藤美左紀さん）といった本に対する熱い思いが語られました。

書庫に埋もれていた本も、POPと一緒に展示することで、手に取り、借りていく人がいます。来年度以降も是非継続して開催したいです。



受賞者と郡図書館長（左から2人目）



POP 作品と投票コーナー

「弘前大学グリーンカレッジ」ホームルームを実施

本学（学長 佐藤敬）は、平成 27 年 11 月 20 日（金）、弘前大学グリーンカレッジ生（以下「カレッジ生」）を対象に第 1 回目の「ホームルーム」を行いました。

グリーンカレッジは、大学が若者だけでなく社会人など多様な方々が学ぶ場となることを目指して、平成 27 年度後期から開講しているものです。

「ホームルーム」は、カレッジ生同士の親睦を図るとともにカレッジ生の希望などを知る機会を設けることとして開催しました。当日は、グリーンカレッジ校長でもある佐藤弘前大学長から挨拶の後、伊藤副校長（弘前大学副学長）の進行により和やかに進み、カレッジ生活の感想として「若い頃と違って楽しい」、「時間をやりくりしながら参加しているので一度でも休むととてももったいない気がする」、「難しいが何とか頑張ってついていっている」など、喜びの声が多く聞かれ、また連絡先を交換するなど交流を深めていました。

なお、次回のホームルームは、カレッジ生のみなさんにより選ばれたホームルーム長を中心に開催する予定です。



佐藤学長（左）と伊藤副学長（右）



「ホームルーム」の様子

第 11 回 COI 特別講演会を開催

平成 27 年 11 月 20 日（金）、弘前大学大学院医学研究科基礎棟大講義室において、理化学研究所統合生命医科学研究センター副センター長 久保充明 氏を講師にお招きし、「個別化医療・予防の実現に向けて」と題した特別講演会を開催しました。

本講演会は、弘前大学が文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」に採択され、「略称：革新的『健やか力』創造拠点」として、企業および自治体とアンダーワンルーフの下「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」を進めております。本講演会は、この活動を推進するにあたり、更なる知見を深めることを目的に実施しており、今回で 10 回目の開催となります。(第 9 回中止)

講演会では、ゲノム医療が目指すもの（個人の体質を考慮した最適な医療・病気の予防）、オーダーメイド医療実現化プロジェクトについて（ゲノム医療研究基盤整備、ゲノムワイド関連解析）、ゲノム情報からわかること（身長、太りやすさ・病気のなりやすさ・治療効果・薬の副作用）、日本における遺伝子検査ビジネスの最近の動向など、個別化医療・予防実現へ向けた研究の様々な取り組みについて御講演いただきました。

当日は約 70 名の一般の方、学生や教職員、企業等関係者が聴講し、講演後にも久保氏に個別に質問を行い、熱心に意見交換がされていました。

今後、本拠点ではゲノム及びコホート研究等への知見を深め一層強化し、COI 事業を展開する予定です。



挨拶する中路研究リーダー



講演する理化学研究所 久保先生



質問する聴講者



熱心に聞き入る聴講者

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に係る
連携・協力に関する協定を締結

本学は平成 27 年度の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されたことを受け、連携する大学等や自治体と連携・協力に関する協定を締結しました。

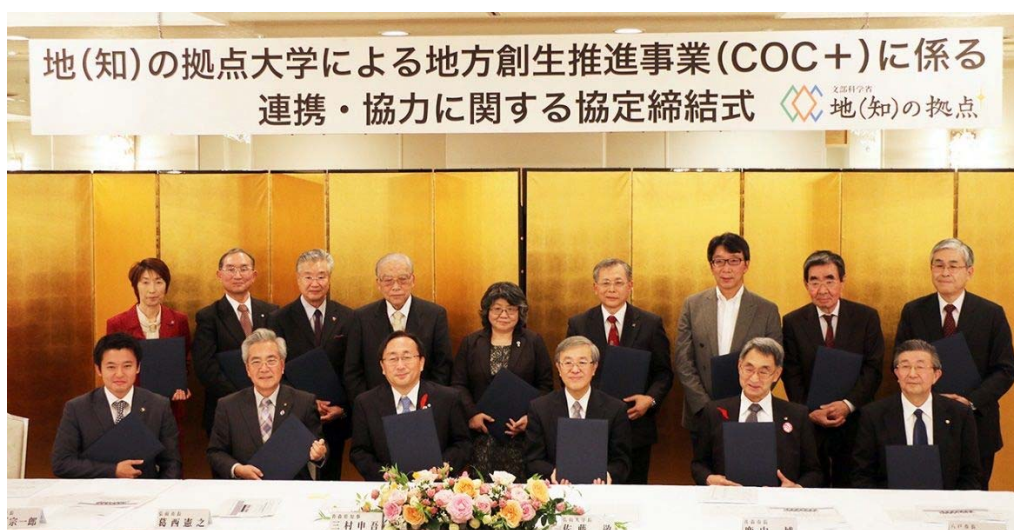
本学が採択された「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」は、青森県の課題である人口減少克服のため、本学と青森県内の 8 大学 1 高専、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市の 5 自治体が連携・協力し、「地域で生活し、地域で働き、地域創生に取り組む人財」の育成を進め、学生の地域就職率の向上、雇用創出を目指します。

平成 27 年 11 月 26 日（木）に開催された協定締結式では、佐藤学長、三村青森県知事、鹿内青森市長、葛西弘前市長、小林八戸市長の代理として奈良岡八戸市副市長、宮下むつ市長、上泉青森県立保健大学長、小澤東北女子大学長、藤田八戸工業大学長、吉岡弘前学院大学長、大谷八戸学院大学長、花田青森中央学院大学長、下田弘前医療福祉大学長、久保青森中央短期大学長、岡田八戸工業高等専門学校長の 15 名が出席し、協定書に署名しました。

協定締結式に続いて「青森 COC+推進機構」の第 1 回目の総会が開催され、機構の設立と、機構長に佐藤学長、副機構長に花田青森中央学院大学長と岡田八戸工業高等専門学校長、監事として上泉青森県立保健大学長と大谷八戸学院大学長が就任することが承認された後、活発な意見交換が行われました。

総会後は、連携する企業や NPO らの関係者も交えた情報交換会が開催され、佐藤学長、青山青森県副知事、加賀谷青森市副市長、葛西弘前市長、奈良岡八戸市副市長、宮下むつ市長が挨拶し、花田青森中央学院大学長が乾杯の挨拶を行いました。

会は和やかに進んだ後、中締めとして永澤弘前商工会議所会頭が挨拶し、大学等、自治体、企業・NPO 等による「オール青森」体制の結束を深めました。



COC+に係る連携・協力に関する協定を締結した出席者



意気込みを語る佐藤弘前大学長



事業への期待を語る三村申吾青森県知事



青森 COC+推進機構総会

平成 27 年度文化庁長官表彰を教育学研究科 2 年 斎藤和彦さん受賞

平成 27 年 11 月 26 日(木)、文化庁は文化振興に貢献した個人や団体に贈る平成 27 年度文化庁長官表彰に教育学研究科美術教育専修 2 年の斎藤和彦さんを選出したと発表しました。

日本文化財漆協会常任理事で津軽塗職人でもある斎藤さんは現在 56 歳。昨年、弘前大学教育学研究科に入学し、石川善朗教授のもとで地域の工芸品に関する技術及び開発について指導を受けています。今回の受賞功績は、長年にわたり、同協会の要職にあって、選定保存技術「日本産漆生産・精製」の保存・伝承事業を推進し、文化財保護に多大な貢献をした点が認められたものです。

斎藤さんは、「漆という日本の伝統的な工芸に対し、若い人たちをはじめ多くの人に興味を持ってもらえる手伝いが少しでもできれば」と後輩へのメッセージを寄せました。

なお、本表彰には斎藤さんの他にも EXILE のリーダー HIRO さんら計 43 名が選出され、表彰式は 12 月 11 日(金)に文化庁にて行われました。



表彰状を手にする斎藤和彦さん



表彰式修了後の全体写真

諸会議

▼役員会

11月9日（月）

審議事項

1. 職員の懲戒等について
2. 国立大学法人弘前大学教育研究院学系会議規程の一部改正について
3. 国立大学法人弘前大学保有個人情報管理規程の一部改正について
4. 国立大学法人弘前大学保有個人情報開示等手続き規定の一部改正について
5. 国立大学法人弘前大学保有個人情報開示等手続き規定の一部改正について

報告事項

1. 平成27年秋の生存者叙勲受章について
2. 国立大学法人弘前大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果について
3. 平成28年度概算要求 運営費交付金（機能強化経費「機能強化促進分」）の予算伝達について
4. 文部科学省大臣官房参事官 松尾泰樹氏の講演について
5. 八戸サテライト「ナチュラル・イノベーション講座」実施について

11月16日（月）

審議事項

1. 国立大学法人弘前大学職員懲戒等委員会において調査・審査すべき事案について
2. 平成27年度 予算実施計画の変更について
3. 弘前大学教員免許状更新講習実施規定の一部改正について
4. 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に係る連携・協力に関する協定の締結について

報告事項

1. 教育推進機構の組織について
2. 平成28年度科学研究費助成事業（科研費）申請状況について
3. 函館市長による講演会「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」の開催について
4. 平成27年度弘前大学と弘前市の連携推進会議の開催について
5. 平成27年度医学部附属病院の経営状況について

▼教育研究評議会

11月10日（火）

報告事項

-
1. 教員の採用等について
 2. 平成 27 年度内部監査（重点監査項目）の結果について
 3. 国立大学法人弘前大学の平成 26 年度に係る業務の実績に関する評価結果について
 4. 第 15 回総合文化祭について
 5. 平成 27 年度弘前大学学術特別賞の受賞者決定について
 6. 文部科学省大臣官房参事官 松尾泰樹 氏の講演について
 7. 平成 28 年度競争的資金申請の基本方針について
 8. 農場祭について
 9. 附属図書館ラウンジトーク第 4 期について
 10. 委員会等報告
 - (1) 教育委員会（10 月 28 日開催分）
 - (2) 研究委員会（10 月 23 日開催分）
 - (3) 21 世紀教育センター運営委員会報告（10 月 15 日開催分）
 11. 国立大学法人弘前大学保有個人情報管理規定の一部改正について
 12. 育児介護休暇・休業制度リーフレットについて

▼教育委員会

11 月 25 日（水）

審議事項

1. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領等について
2. 平成 27 年度後期授業料免除について
3. 平成 27 年度後期弘前大学大学院振興基金について

報告事項

1. 平成 28 年度新入生の授業開始までの日程について
2. 弘前大学見学会について
3. 防災訓練の実施について
4. 課外活動団体の結成について
5. その他

人 事 異 動

[採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年11月01日		下山 夫美加	事務職員(研推・研推) [H30.3.31まで]
H27年11月01日		立田 夏子	講師(人文社会・教育学系/人文科学領域/教育推進機構 教養教育開発実践センター専任担当) [H34.10.31まで]
H27年11月01日		三浦 和知	助教(医学系/臨床医学領域/医学部附属病院専任担当) [H32.10.31まで]
H27年11月01日		川谷 健一	助教(COI研究推進機構) [H28.3.31まで]
H27年11月01日		藤巻 亜理沙	看護師(病院・看護)
H27年11月01日		佐々木 弘美	看護師(病院・看護)

[任期更新]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年11月01日	准教授(医学系/臨床医学領域/大学院医学 研究科専任担当)	鈴木 幸彦	准教授(医学系/臨床医学領域/大学院医学 研究科専任担当) [H34.10.31まで]

[休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年11月01日	主任(医)	和田 丈稔	期間延長 [H27.11.30まで]
H27年11月01日	助教(医学系/臨床医学領域/医学部附属病 院専任担当)	伊藤 太平	休職開始 [H29.09.30まで]
H27年11月10日	看護師(病院・看護)	柏崎 弓美	期間延長 [H28.02.09まで]
H27年11月13日	事務職員(研推・研推)	金谷 静	期間延長 [H28.01.04まで]

[離職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H27年11月30日	助教(医学系/臨床医学領域/大学院医学研 究科専任担当)	田中 靖章	辞職

主要日誌

- 11月 2日 めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業
- 4日 ナチュラル・イノベーション講座
- 9日 第3回弘前大学起業家塾
 - 〃 ロシア科学アカデミー極東支部ウラジオストク植物園研究所との国際共同セミナー
 - 〃 第443回役員会
- 10日 企画戦略会議
 - 〃 教育研究評議会
- 16日 第444回役員会
- 17日 経営協議会
- 18日 在札幌米国総領事 弘前大学訪問
 - 〃 「第1回附属図書館 POP コンテスト」表彰式
 - 〃 事務連絡会議
- 20日 「弘前大学グリーンカレッジ」ホームルーム
 - 〃 第11回 COI 特別講演会
- 26日 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）協定締結式

学内規則

(平成27年11月16日改正)

(一部改正)

○国立大学法人弘前大学保有個人情報管理規程

○国立大学法人弘前大学保有個人情報開示等手続規程

本学の保有する個人情報の管理及び取扱い等について、以下のとおり、上記の規程を一部改正した。

①マイナンバー制度の運用開始に伴う「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(内閣府)」の策定を受け、規程の定義に「番号法」を追加するとともに、個人番号及び個人番号を含む個人情報の取扱いを明示的に規定する。

②年金に係る個人情報流出事案を受けた「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針(総務省)」の一部改正に伴い、不正アクセス等の問題事案発生時における初期対応に係る対策強化を図るとともに、現場における安全管理措置の徹底に関する事項を追加する。

(平成27年11月16日制定等)

(一部改正)

○国立大学法人弘前大学教育研究院学系会議規程

学系会議の構成員として、医学部附属病院長及び研究所長を明確に規定するため、上記の規程を一部改正した。

(平成27年11月20日制定等)

(制定)

○弘前大学における人を対象とした医学系研究に関する規程

平成27年4月から施行になった「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(以下「新倫理指針」という。)」に基づき、本学における人を対象とした医学系研究に関し、学長としての権限及び事務を部局長に委任することにより、倫理審査手続き等の迅速化を図るため、上記の規程を制定した。

弘前大学学報第140号

弘前大学総務部広報・国際課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172) 36-2111